

12/17
(火)

嵐の中の証人たち

ヨハネの黙示録一章19節

私は、私の二人の証人に粗布をまとわせ、千二百六十日の間、
預言させよう。(3)

第七のラツパが吹かれる前に、もう一つの出来事が告げられます。四十二か月の間、神に敵対する異邦人たちが聖なる都を踏みに行くといいのです。その一方で、同じ期間、神を信じる二人の証人が福音を語り続けます。神を拒む者たちの暴力がこの世を支配するときも、嵐の中でキリストは証し続けられます。教会は嵐の中でこそ、世の光として輝くのです。しかし、彼らがキリストを証しする働きを終えると、殉教の死が待っていることが予告されます。ギリシヤ語で「証人」という言葉は、「殉教者」という意味もあります。キリストを証しすることは、殉教をも覚悟することです。初代教会の人々は、激しい迫害の嵐の中でも、命をかけてキリストを証し続けました。そのような殉教の精神をもった主の証人たちによって、この尊い福音が私たちのもとにまでもたらされたのです。